

軽井沢土曜懇話会

第6回 10月25日(土) 15:00 ~ ヴァイオリンコンサート

リヒャルト・シュトラウスからアールヌーヴォーの世界へ

ヴァイオリン：大津 純子(ヴァイオリニスト) ピアノ：岡田 知子(ピアニスト)

<曲目>

エーリッヒ・コルンゴールド：ロマンス

リヒャルト・シュトラウス：ヴァイオリン・ソナタ 変ホ長調 作品18

“ ”：歌曲集より～『子守唄』『万霊節』

『二人の秘密をなぜ隠すのか』

* 曲目は都合により変更になる場合があります

<プログラム解説>

アールヌーヴォー (art nouveau：“新芸術”の意味) 様式って ご存知ですか？

ピアズリー・マッキントッシュに代表される、豊穣な装飾と図案的表現・・・植物的モチーフが曲線や曲面を描き、まるで、蔦が絡み合い天上に向かって伸びていくような、そう、あのデザインです。19世紀末から20世紀初頭のヨーロッパの国々で、建築物・工芸・絵画などの諸芸術において大流行しました。

ミュンヘン宮廷オーケストラの名ホルン奏者：フランツ・シュトラウスの子として生まれたリヒャルト・シュトラウス(1864～1949)は、19世紀末から20世紀に掛けてのドイツが生んだ最大の作曲家とされています。父親の英才教育の下、幼少よりピアノ、ヴァイオリン、音楽理論を学び、6歳にして最初の作品を作曲。その後も、ピアニスト、作曲家、指揮者として大きな注目を浴びながら、ドイツ・ロマン派音楽を最大に推し進めた大ピアニスト：リストや楽劇王：ワーグナーの後継者として、交響詩、オペラなどの分野で新しい世界を切り開いていきます。『ドン・ファン』作品20、『死と浄化』作品24、スタンリー・キューブリック監督による1968年の名作映画：<2001年宇宙への旅>の冒頭で使われ、すっかり有名になった『ツァラトゥストラはかく語りき』作品30、『英雄の生涯』作品40などの交響詩の数々、オペラ『バラの騎士』作品59などの代表作は、現在、世界中のオーケストラやオペラハウスには欠かせないレパートリーとなっています。

斬新な和声の響き、そして、巨大な編成の管弦楽が描く煌めくような色彩は、我々を華麗な<アールヌーヴォーの世界>へと誘います。彼が呈示した近代音楽のひとつの方向性は、次世代に大きな影響を与えました。10代から“モーツァルトの再来”と騒がれ、ヨーロッパで大きく成功していたE.コルンゴールドは、ナチスの迫害を逃れてオーストリアよりハリウッドに渡り映画音楽の分野で活躍しましたが、彼もR.シュトラウスの多大な影響を受けた作曲家のひとりです。

今回取り上げる、R.シュトラウス最初の歌曲集：「8つの歌」作品10(1882～83)第8番『万霊節』、また、ヴァイオリン・ソナタ：作品18(1887～88)などは10代、20代初期の作品ですが、そこには早くも彼の才能の全てが凝縮されています。

大津 純子

ヴァイオリニスト

東京芸術大学、米国ジュリアード音楽院卒業後、NYを拠点に演奏活動開始。ジュネス・ミュージカル・インターナショナル及び、カーネギー・ホール両者による招待にてニューヨーク・デビュー。セントルイス交響楽団、シモン・ポリバル・ヴェネズエラ国立オーケストラ他との協演、リサイタル・プログラム：<The Artistry of Junko Ohtsu>のパブリックTVネットワークによる全米30都市以上への放映、また、米国でのラジオ放送出演も数多い。ロックフェラー三世財団より2年間に亘り特別グラント受賞。

国際交流基金派遣にて、ロシア、チェコ、オーストラリアなど、欧州、アジア、中南米諸国にて公演し、絶賛される。『ヴァイオリンの詩』、『アメリカ』(1998年、“レコード芸術”誌「室内楽準推薦盤」に選出)、『Prelude to a Kiss』などCD5枚をリリースしている。

2002年、自ら企画・プロデュースする『Good Old Days』室内楽シリーズ：アメリカの<素敵な時代>を立ち上げ、日本のクラシック音楽シーンの盲点であった“知られざるアメリカ”にスポットを当てた意欲的な好企画として、また、文化的な新シリーズとして、音楽界はもとより各界でも大きな注目を集めている。シリーズ第三回目：『ヨーロッパの巨匠たち』は、2004年4月16日(金)紀尾井ホールにて開催予定。

岡田 知子

ピアニスト

東京芸術大学器楽科を卒業後、北西ドイツ音楽アカデミー・デトモルトへ留学。声楽の伴奏、器楽とのアンサンブルを学ぶ。K・シルデ、G・バイセンボルンに師事。1976年同校を首席で卒業。1977年1月ベルリン、メンデルスゾーン・コンクール、ピアノ・トリオ部門第一位入賞。同年10月ジュネーブ国際音楽コンクール、ピアノ・トリオ部門第二位(一位空席)及びスイス特別賞受賞。1978年帰国、以降アンサンブルピアニストとして活発なコンサート活動を続けている。また来日演奏家との共演、CD録音、コンサートのプロデュース等々、多方面で活躍している。毎夏、草津夏期国際音楽祭、そしてスイスで開かれるチューリヒ・マスター・コースに専属ピアニスト、教授陣のアシスタントとして招かれている